

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘(1)		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町 1-6-11		
自己評価作成日	平成31年1月13日	評価結果市町村受理日	平成31年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年2月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

- 【日常生活】何事にもご利用者様と職員とが一緒に行い、ADLやQOL維持向上に努め、たのしく活気のある生活を提供させていただいています。又、地域交流も積極的に行っている。
- 【豊富な年間行事/イベント】年間行事(初詣、節分、雛祭り、お花見、端午の節句、七夕、夏祭り、秋の遠足、敬老会、クリスマス会を実施。また、お誕生日会、外出モーニング、ランチ、おやつなどご利用者様の希望を取り入れて実施しています。
- 【医療連携】訪問診療、訪問歯科、訪問看護と連携し、ご利用者様の健康管理を行い、安心できる生活を提供しています。
- 【研修】社内研修以外にも外部研修を受講し、職員のスキルアップとこころのケアを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は、自主的に利用者や職員で事業所周辺を清掃して近隣の方と挨拶したり、運営推進会議で地域の情報を得て利用者や地域の盆踊りや市が協賛している行事への参加や、認知症カフェや小学校の文化祭等に出掛けています。また事業所でのクリスマス会や敬老会等の行事の際にはボランティアによる歌の披露や楽器の演奏を楽しむ等、地域との交流を深めることで良好な関係を構築し利用者へのサービスの向上に繋げています。運営推進会議には利用者や家族だけでなく、自治会長や他事業所の職員の参加も得て意見交換を行い運営に活かしています。職員は多くの研修の機会を通じて知識を身に付けてスキルアップに取り組み、明るくアットホームな雰囲気の中で、利用者がその人らしく楽しく過ごせるよう話し合い協力しながら日々の支援に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自施設での理念について職員からの提案により作成し、職場に貼り出し職員間で共有している。朝の申し送りに読み合わせを行っている。(毎月25日～末) H30.1～継続	職員間で話し合い作成した事業所独自の理念を玄関やフロアに掲示すると共に、月末には唱和をして意識付けを行っています。地域交流が深まるよう取り組んだり、毎月の会議等で理念に沿った支援が出来ているか振り返りを行うことで理念の実践に努めています。また、理念についての見直しも行っており項目を増やしたこともあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃、地区落語会、盆踊り、市民祭り近隣の高等学校文化祭、認知症カフェ、守口らんらんに参加をして交流を深めています。	事業所周辺を掃除する際に近隣の方と挨拶したり、自治会に加入し運営推進会議等で地域の情報を得て盆踊りや近隣の小学校の文化祭、認知症啓発のイベント等に利用者に参加したり、認知症カフェに出掛けています。事業所でボランティアの訪問による歌の披露や楽器の演奏を楽しむ等、積極的に地域の方々と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設で調理した赤飯・おはぎ、又畑で収穫した野菜を近隣の方々にご利用者様と職員がおすそ分けをお配りしたりして、ありのままのホームを見ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様・ご家族様・地区会長・地域包括地域の介護事業者に対して会社状況、施設の状況をお伝えしてご意見を頂き、より良いサービス向上に繋げている。	会議は2か月に1回利用者や家族や、自治会長、他事業所の職員、地域包括支援センター職員等をメンバーとして開催し、利用者の状況の伝達や活動の報告、行事の連絡、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の行事の情報をもらい参加したり、他事業所の事例を聞き参考にすると、会議をサービスの向上や支援に活かすように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当地域包括だけではなく、市の窓口へも報告や相談に行っている。 地元のケアマネ会やグループホーム会に参加してご協力いただいています。	運営上の手続きや報告、不明点の確認、相談等で行政の窓口へ訪問しています。行政が後援しているイベントの運営に参加すること等で行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員身体拘束の意味を理解し、実践に取り組んでいる。毎月の全体会議では拘束"0"の期間を確認し合っている。1回/2ヶ月、身体拘束委員会を実施(運営推進会議後)	職員の入職時の研修や法人で実施する身体拘束に関する研修に代表職員が参加し、事業所で内容を周知しています。言葉かけによる制止がみられた時には代わりになる言葉かけを職員間で話し合っています。玄関は施錠し、フロア入口も利用者の状況により施錠することもあります。外出希望の利用者には出来るだけ職員が寄り添って外気浴や散歩に出掛けて気分転換を図り閉塞感の無い暮らしへの支援に努めています。	

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外での研修を受講している職員から内部職員への伝達をしている。また、ご利用者様で後見人制度を利用されている方がいるので実際に後見人の姿を通して学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が主体となり十分な時間をとってご利用者様・ご家族様のご理解を頂いている。ご利用内容の改定等は運営推進会議などを通じて十分な説明を行い、ご理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議、面会時にはご意見を頂ける様な声掛けをしている。また玄関には専用ポストを設置している。年一度、ご家族様に満足調査を実施し、施設運営改善に役立っている。	利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞くように努め、外出や希望する食事を提供する等サービスに活かしています。毎月事業所便りと利用者の近況を画面にして家族に送付し、法人が実施するアンケートや家族懇談会、面会時等で家族の意見や要望を聞き事業所や利用者の現状の理解を得ると共に、運営やサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	徹底討論徹底和解の本社理念のもと、毎月フロア会議と全体会議を実施して職員の意見を聴く機会を設けている。また職員の日々の気づきを運営改善に役立っている。	毎月実施するフロア毎の会議や全体会議の機会、行事や備品購入等の各業務担当としても職員から意見や提案を聞いています。意見から利用者の状態に合わせて食事の業者を変更する等、意見や提案を運営に反映しています。また年1回の定期的個別面談や日々の中でも随時面談を行い意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社「誰伸び制度」を全職員が理解し、やる気があればステップアップできる環境がつくられているまた、年に一度の職員希望調査で、本人の希望調査をで、本人の希望を優先して施設異動も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内でコーチングなどの各種研修を実施。また、各職員がスキルアップし、資格習得研修等受講し易くなるように受講費用等支援制度を設けている。		

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はケアマネ会や地元のグループホーム会に参加できる環境が整っている。また職員は本社研修や会議等で他地域の職員との交流が出来る。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様より聞き取りが困難であれば、ご家族様や関係ケアマネ等の話を傾聴して現状把握に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様が安心して話していただけるような場所と時間を設定し話が尽きるまで徹底して傾聴している。またいつでも来訪時には気安く話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のニーズをしっかりと把握するように努めている。施設内外サービスも十分ご説明して必要なものはご理解して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設周辺清掃から居室やフロア掃除、調理食器洗い、洗濯たたみ等ご利用者様と一緒に、「有難うございます。」感謝の言葉が飛び交う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご利用者様、ご家族様に一番うれしい」この事を大切に考えて、いつでも施設に来て頂けるような雰囲気作りを行っている。イベントでは、なるべくご家族様が参加できるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様にはご家族様、友人知人の定期的来訪があり、フロアや居室で寛いでいただいている。馴染みのスーパー等へは、買い物同行を実施している。	友人や知人等の来訪の際には居室へ案内し椅子やお茶を出してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。職員と馴染みの商店に買い物に出掛けたり、地域行事に行った際に知り合いに会うこともあります。また家族と自宅や美容室、墓参りに等に出掛ける際には薬や服装等の事前準備を支援しています。知人からの電話の取次ぎや年賀状の作成を支援する等、馴染みの関係が継続できるよう支援をしています。	

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やリクレーション、イベントにおいてご利用者様の個性を大切に活かしつつお互いが支え合う関係作りを支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者様、ご家族様には何かあればいつでも相談に来られるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや計画作成を中心としてカンファレンスを実施してご利用者様の思いや意向の把握に努める。	入居時に自宅や施設等暮らしている所へ訪問し利用者や家族から面談で生活歴や身体状況、思いや希望等を聞き、以前の施設やケアマネジャーからも情報を得ています。入居後は日々の中で聞いた思いや意向を記録に残し、会議で職員間で検討したり家族へも相談して本人本位に思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様、元ケアマネなど関係する方々のお話をよく聴くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の介護記録を毎日記録して現状の把握に努めている。又、毎月のカンファレンスで課題共有を図り、今後の方向付けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様介護職員、医療関係者などの意見を聴いてモニタリングを実施している。その結果を時期介護計画の見直しに反映する。	利用者や家族の思い、アセスメントを基に作成した介護計画は6か月毎の見直しを基本とし、モニタリングと評価を行い、利用者の状態に変化があれば随時見直しもしています。見直しの際にはサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や医師等の意見を反映しています。日々の介護記録には計画の実施状況を記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に必ず介護記録を確認して情報の共有を図り、状態の変化を発見して介護計画の見直しに活かしている。		

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	晴れた日の散歩、菜園作り、買い物。 或いは内、外のイベントに出来る限り参加して頂き、ご利用者様 本位の柔軟のある支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて地元神社への参拝、公園や商店街薬局、スーパーなどを利用している。近接高校の文化祭を見学したり、公民館の落語会を見物したりして楽しんでいる。認知症カフェ、守口らんらんに参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、特に体調変化のあるご利用者様には予定日に関係なく診ていただいている。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か協力医への変更を選択してもらっています。月2回協力医の往診や週1回看護師による健康管理を受け、緊急時は24時間対応の協力医に連絡し必要な指示や随時の往診を受けています。協力病院は眼科以外の診療科があり受診は職員が対応し、以前からのかかりつけ医や他の専門医へは家族対応が基本に受診しています。また、利用者の希望や状態に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日の訪問時に1週間の報告をしている。看護師は訪問医師と職員に気づいた点や変化を報告。また訪問医師の指示が関係者全員にいきわたるよう努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、提携病院の地域連携室と連絡を取り、ご利用者様の状態の把握に努め、また担当医師より病気の現状や今後の治療方針を教えていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護の方針をご家族様に説明し、職員には看取り加算申請の旨を伝えている。本社では看取りについての研修の実施されていて、全職員が施設研修として受講している。	入居時に指針を基に利用者が重度化した際の事業所の方針を家族へ説明しています。利用者の状態が進んだ際には、医師や看護師、職員間で話し合い体制を決め、家族から頻回な面会等の協力をもらうと共に都度思いを確認し、また訪問看護師より助言を受けながら支援しています。看取り支援を終えて職員間で振り返りもしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、急変時に備えている。 (毎日、動作確認している) 消防署の指導の下、講習を受講(H30.5)		

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。 また、緊急避難先の近接高校へは文化祭などで見学を通じて顔なじみの関係を構築している。 防災マニュアル作成済(BPC)	施設全体で年2回それぞれ昼夜を想定し、いずれも消防署立ち会いの下利用者も参加し通報や避難誘導、水消火器を使用した初期消火の訓練等を実施し、消防から講評を得ています。訓練実施の際には近隣へ案内を行い、実際に見学をしてもらうこともあります。また、水や缶詰等の食料、コンロ、簡易トイレ等も備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症実践者研修などで学んだ事を基に認知症についての施設研修を実施して「ご利用者様に寄り添う馴染みの関係」を構築できるように努める。	外部や法人で実施する接遇やマナー等に関する研修を職員代表が受け、事業所で内容を伝達し知識を身に付けています。同じ目線で丁寧に利用者に分かりやすい言葉かけを心掛け、不適切な言葉かけが見られた際には会議で話し合ったりその都度注意しています。入浴や排泄介助時は利用者の希望に応じて出来るだけ同性介助を行い、羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押しつけではなく、ご利用者様自分で決定できるように時間を十分に取ってじっくりお話を聴かせて頂くように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくり起きて朝食をとりたい方、お風呂はできるだけ多く入りたい方、散歩が好きの方、ジュースが好きの方……それぞれのご要望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の使い慣れた化粧品、装飾品などご家族様に購入をお願いしたり、買い物同行支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材をご利用者様とともに、調理をしている。またご利用者様の要望を取り込み、お寿司、キノコご飯等の特別メニューに変更するなどしています。	献立と食材は業者から届き、利用者には野菜の下拵えや洗い物等出来る事に携わってもらっています。業者の食事を止めて鍋や出前で寿司を取って提供したり、うどんや寿司を食べに行くこともあります。炊き込みご飯を作ったり、善哉やおはぎ、ケーキ等の手作りおやつ、喫茶店に出掛けることもあり、食を楽しめるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成するメニューでバランスのとれた食事を提供している。食事形態もミキサー、刻みも提供している。水分はゼラチン、スポーツ飲料等も活用し摂取し易く工夫している。		

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。義歯は職員がブラッシング・洗浄を行っている。また希望者には訪問歯科が毎週来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、排泄訴えのサインを見つけてトイレ誘導、及び排泄行為の一連の介助を行っている。	利用者の日々の記録から排泄パターンを把握し、個々の様子も見ながら利用者の状況に応じた声かけや案内、介助を行っています。重度化する中でも利用者個々に応じた排泄用品の種類や支援方法は会議等で職員間で検討することで、できる限りトイレに行き排泄状態が維持できるような支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を提供したり、ヨーグルトを活用している。また腸の動くを活発にする体操も取り込んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を固定せず、入浴して頂いています。好きなご利用者様にはできる限り、入って頂けるよう配慮しています。	入浴は少なくとも週2回入れるように日中の時間帯に支援し、希望があれば回数を増やしたり入りたいタイミングに配慮しています。拒否が見られた場合は日時を変えたり、声をかける職員を代える等工夫して無理なく入浴してもらっています。湯は一人ずつ入れ替えゆず湯や菖蒲湯をしたり、好みのシャンプーやリンス、石鹸等を持ち込む利用者もあり、ゆっくり楽しんで入浴してもらるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクを実施して日中の活動量を増やし、夜間良く眠れるように工夫しています。また、居室で休息したいご利用者様には、いつでもできるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬情報を個別に管理し、いつでも閲覧できるようにしています。また薬剤師が来たときに、その都度職員から薬についての質問ができるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、料理、洗濯干し、取り込み、歌、書道、パズル、カラオケ、絵手紙などご利用者本位の支援をしています。		

グループホーム たのしい家西三荘(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	清掃、花の水やり、菜園、散歩、外出等を日課として取り込んでいます。また、地域とのふれ合いを考慮し、喫茶モーニング、買い物、ドライブ等ご希望に応じて実施しています。	気候の良い時期には少なくとも週1～2回は散歩に出掛け、日常的に玄関先に出て外気浴を楽しんでいます。地域の行事に参加したり、季節毎に初詣や桜の花見等に出掛けています。緑地公園へ行ったり、少人数で飲食店や買い物、ドライブに出掛ける等、出来るだけ外出する機会を多く持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設用の買い物以外にご利用者様の預り金を使った個人買い物のある。職員と外出同行しお金をだして買い物を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の書道、隔月の絵手紙等を実施し、また、毎月「日々の便り」「月間予定表」「西三荘便り」でご利用者様の様子等を発信しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に応じた花を飾り、壁飾りは月々の変化が感じられるよう配慮しています。作品作りはご利用者様と職員が協働します。5S活動を展開し、常に清潔さに努めています。	リビングに生花や毎月利用者と職員で作った季節の作品を飾り温かい雰囲気を作っています。机や椅子は利用者の状況に応じて配置し、少し離れた場所にソファを置き一人で過ごせる場所も確保しています。温湿度計を設置し、室温を調整や加湿清浄器の使用して湿度保持に配慮し、毎日換気や利用者も出来ることに携わりながら掃除を行い快適な共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置いて、一人で過ごせるスペースを確保し、活用して頂いています。また、食席の配置は気の合うご利用者様等を配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、額縁、文机や仏壇、タンス等 入居前に使っていた愛用品を持ってきていただいています。	入居時に家族へ使い慣れた馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、テレビや筆筒、棚、文机、仏壇等を持ち込み家族に配置してもらい、家族と相談して配置を変えることもあります。人形や家族の写真を飾ったり、本を持ち込み楽しむ方もおり、その人らしい居室となっています。また希望があれば、畳と布団を敷いて休むことも可能です。毎日換気と清掃を行い清潔保持に努め、加湿にも気を配り快適に過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの明るさの調整ができるように設計されている。調理はITを使用して安全第一を考えています。調理場も広く取り、ご利用者様と共同で作業できるようになっています。		